

オイルタンカーの大型化の歴史

8 2 1 6 5 0 8 4 竹中 丙介

1950 年代、高度経済成長期にエネルギー資源は、石炭から石油に転換しそれに伴い原油輸送用タンカーの需要は年々増大することとなった。

その結果、日本の造船輸出額は年間総輸出額の 10%を占め、1956 年には英国を抜いて造船量世界一となった。この事実からもオイルタンカーが日本の造船業の発展に大きく関係している事は明らかである。

オイルタンカーはその歴史の中で、1950 年代から 1970 年代にかけて、載荷重量が 10 倍以上と大きく進化し(4~5 万 DWT→50 万 DWT 以上)、1970 年代には造船各社は 100 万 DWT タンカーの設計も完了していたが、それをピークにサイズは下降。現在では 25~30 万 DWT のものが主流となっている。

私が調べようと思うのは、オイルタンカーのサイズの変遷の歴史的背景と、現在に至るまでに直面した課題である。

歴史的背景

- ・ オイルショック
- ・ 後発造船国との競合

タンカー設計の課題

- ・ 運航効率の良い船型形状の決定
- ・ 環境問題

具体的には、上記のものを主体にこれから調べていきたいと思う。